

授業概要

心理学実験は、受講生自身が実験者や実験参加者を経験することによって、心理学的知見が生み出されていく過程を具体的に習得することができる、非常に重要な科目である。この授業は次年度開講の「心理学実験」の受講の基礎となる知識を講義するとともに、受講生が実際に実験を実施し、そこで得られた結果をふまえ、現象に対する問題意識に対する回答を報告する技術の修得を指導する。

まず、心理学の多様な研究方法のうち、因果関係の検証に最も適した方法である研究方法である実験法の特徴を講義する。次に、実際に実験を実施し、実験の計画立案から報告書（実験レポート）の執筆に至る一連のプロセスに必要な技能を指導する。

なお、この科目は公認心理師カリキュラムに対応する科目である。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方・成績評価、など）
第2回	心理学研究における実験法（1）なぜ心理学で「実験」をするのか
第3回	心理学研究における実験法（2）実験の種類と特徴
第4回	心理学研究における実験法（3）因果関係を検証するためのしくみ①（独立変数・従属変数）
第5回	心理学研究における実験法（4）因果関係を検証するためのしくみ②（剰余変数）
第6回	実験の実際（1）幾何学的錯視の実験
第7回	実験の実際（2）データのまとめ方について①（図表化）
第8回	実験の実際（3）データのまとめ方について②（要約統計量の算出）
第9回	実験の実際（4）報告書の書き方について
第10回	中間まとめ：心理学における実験法の意義について（兼.中間レポート①の提出）
第11回	実験の実際（5）ストループ効果の実験
第12回	実験の実際（6）データのまとめ方の復習（図表化・要約統計量の算出）
第13回	実験の実際（7）データのまとめ方：今後の学習の基礎（統計的検定の初歩）
第14回	実験を実施する際に注意すべきこと：倫理的問題について（兼.中間レポート②の提出）
第15回	全体のまとめ
第16回	定期試験

到達目標

実際に実験を実施し実験レポートを執筆すること、実験レポートの添削結果を振り返ること、以上の2点を経て、心理学における研究成果の報告方法を理解する。

履修上の注意

- ・実験レポートの執筆には授業時間外にもかなりの負担を要するため、注意すること。
- ・同時期に開講される「心理学統計法Ⅰ」の授業内容の一部と関連がある。両方の講義内容について理解を深める姿勢をもってほしい。
- ・次年度に開講の「心理学実験」の履修では、この授業で学んだ知識・身につけた技能を発揮する必要がある。授業の連続性を理解しながら履修を進めてほしい。
- ・実際に実験を行う週は、教室を変更して実施する可能性がある。連絡事項に注意してほしい。実験は参加者の協力によってはじめて成立するものである。したがって受講するのであれば、真剣に受講してほしい。特に、実際に実験を行う週は、理由のない欠席や遅刻は他の受講生の迷惑になるため、そのようなことがないように努めてほしい。

予習・復習

特に予習は必要ないが、なるべく事前に授業プリントを配布するので、テキストと共に目通ししておくことよい。また、中間レポートの作成にあたっては授業時間外にも多くの作業をすることになるので覚悟すること。

評価方法

評価の内訳は、平常点（授業態度、提出物に関する約束事の遵守の程度）が4割、2つの中間レポートが2割、定期試験が4割である。第1回の講義で、評価方法の詳細を説明する。

テキスト

大和田智文・鈴木公啓(編著)『心理学基礎実験を学ぶ』北樹出版 ISBN978-4-7793-0483-5